

## VIII 「その他」項目自由回答の分析

## —都民の水環境意識調査報告その8—

1. はじめに
2. 自由回答者の属性
3. 個々の自由回答についての分析
4. いくつかの調査票から
5. おわりに

太田茂樹\*  
飯島伸子\*\*

## 要 約

自由回答の回答者数に関しては三鷹と府中の方に大きな差があり、その原因としては、一つには年齢における回答者数の差で、中年層（40～50）において三鷹の方が府中に比べて多かったこと、そして二つ目には性別における差で三鷹の男性が府中の男性を大幅に上回ったこと、そして三つ目には設問ごとの差で、「水の味」に関する回答者数において三鷹が府中よりもかなり多かったことが原因として考えられた。

次に年齢に関しては、低率と予想された20代前半の回答率が思いの外良かったこと、そしてそれが20代後半になると下がること、が両市共通に見られた。性別に関しては、予想に反して両市とも男性の回答率は比較的高く、特に三鷹はかなりの高率となった。職業については「会社・団体の課長以上」「学生」は予想したほどの低率とはならず、一方、「専業主婦」については逆に予想ほどの高率にはならなかった。高率だったのは「専門・技術的な仕事」「自由業」の二つであった。

次に個々の設問についてだが、問6（問3であげた水辺に関する不満や困る点）では三鷹の人は玉川上水を、府中の人は多摩川について不満をあげる人が多かったようである。問8（水道水の味について感じていること）については回答数において三鷹が府中を大きく上回った。そしてその内訳については「おいしい」「まずい」と意見が大きく分かれたが原因としてははっきりしたことはわからなかった。問10（水道水の安全性について感じていること）に関しては、安全性に対する漠然とした不安を訴えるものが目立った。問16（普段、水に関してお宅で実行していること）に関して多かったのは「とぎ汁を植木にかける」「三角コーナーなどに細かいネットをつける」などだった。問19（環境を守るために普段実行していること）では「トレー回収」「生ゴミの堆肥化」など、資源のリサイクルが目立った。

\*東京都立大学大学院（修士課程）

\*\*東京都立大学人文学部

表Ⅷ-1 自由回答者の年齢分布（細区分）

選択肢		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	計
三 鷹 市	人 数	15	10	15	12	18	13	17	14	10	8	14	146
	自由回答者 中での割合	10.2 %	6.8 %	10.2 %	8.2 %	12.2 %	8.8 %	11.6 %	9.5 %	6.8 %	5.4 %	9.5 %	99.2 %
	全 体 での 割 合	8.6 %	8.0 %	10.1 %	8.0 %	10.7 %	9.3 %	9.4 %	8.4 %	8.3 %	7.1 %	10.1 %	98 %
府 中 市	人 数	9	10	13	12	4	17	7	8	13	7	10	110
	自由回答者 中での割合	8.2 %	9.1 %	11.8 %	10.9 %	3.6 %	15.5 %	6.4 %	7.3 %	11.8 %	6.4 %	9.1 %	100.1 %
	全 体 での 割 合	7.2 %	11.5 %	9.9 %	7.4 %	9.7 %	11.9 %	7.9 %	9.0 %	10.8 %	6.6 %	7.5 %	99.4 %

①20～24②25～29③30～34④35～39⑤40～44⑥45～49⑦50～54⑧55～59⑨60～64⑩65～69⑪70～  
小数点以下2桁四捨五入 不明 三鷹1

## 1. はじめに

まず最初に断っておくと、ここで自由回答と呼んでいるものは幾つかの設問に付いている「その他」欄のことで具体的には設問の6、8、10、13-1、16、19、21、23、25で、フェイスシートの部分は除いてある。この様な部分は通常、分析の対象とされることは少ない。しかし、本調査においては、後で詳しく触れるが両市合わせて全体の20.4%の人、すなわち約5人に1人が「その他」欄に何らかの回答をしてくれた。これはかなり高い数値であり、また何とんでも回答者の生の声であることから放っておくのはもったいないという声が我々のグループ内にあった。そこで僕がこの分析を担当することとなった。それでは、「水」そして「環境問題」に対する大都市居住者の意識はどうなっているのか、自由回答によってみていくことにしたいと思う。

## 2. 自由回答者の属性

それでは、まず自由回答者の傾向や属性について、見ていきたいと思う。

### 1) 総数について

まず、自由回答者の総数を、三鷹市と府中市を別々に見てみたいと思う。

三鷹市…147人 府中市…110人

アンケート全体の回答者数は三鷹市616人、府中市636人で府中市のほうが若干多いのだが自由回答者数では三鷹市の方が府中市よりもかなり多くなっている。その原因については以下見ていく際に検討していきたいと思う。

割合でいうと三鷹市では約4.2人に1人(23.9%)、府中市では約5.8人に1人(17.3%)の人が何らかの自由回答をしてくれた。

### 2) 年齢について

次に自由回答者の年齢(問27)について見てい

表Ⅷ-2 自由回答者の年齢分布（大区分）

		年 齢	20～39歳	40～59歳	60歳～	計
三 鷹	人 数		52人	62人	32人	146人
	割合（自由）		35.4%	42.2%	21.8%	99.4%
	割合（全体）		34.6%	38.7%	25.5%	98.8%
府 中	人 数		44人	36人	30人	110人
	割合（自由）		40.0%	32.7%	27.3%	100%
	割合（全体）		36.0%	38.5%	25.0%	99.5%

（注）「割合（自由）」とは各市の自由回答者数の中での割合、「割合（全体）」とは各市のアンケート回答者数の中での割合  
 小数点以下2桁四捨五入 不明 三鷹1

きたいと思う。サンプル数が少ないので、あくまで推測の域を出ないと思われるが、参考までに検討していきたいと思う（表Ⅷ-1参照）。

表Ⅷ-1から各市の自由回答者中の各年齢層の割合と、各市のアンケート回答者全体におけるその割合とを比較してみると、年齢ごとに多少のズレが見られる。「網掛け」がしてある方がこの二つのうち割合の高い方であり、従って「網掛け」が上段にきているものは、その年齢における自由回答率が高かったことを、下段にきているものは、低かったことを示している。この上下のパターンを三鷹と府中で比較してみると、必ずしも一致しないことがわかる。このパターンが一致するものはある程度の普遍性を、一致しないものはその市独自の傾向をある程度示す（偶然の要素も強いが）ものと思われる。ちなみに、一致したものは選択肢①②③④、そして⑩となった。感じたこととしては、選択肢①（20～24歳）の割合が低くなるものと予想していたのだが、思いの外、三鷹でも府中でも高率となった。そして両市ともそれが選択肢②（25～29歳）になると減少する。これは20代後半が前半に比べ、就職、結婚などで忙しくなる事も影響しているかと思われる。

次に、中高年に関しては両市の間にかかりのば

らつきがみられるのでもう少し大まかに見ていく方が有効かと思われる。選択肢①～④（20～39歳）、⑤～⑧（40～59歳）、⑨～⑪（60歳～）に分けてみたのが表Ⅷ-2である。これは前述した両市の自由回答者の総数の差について分析を試みる上でも多少の参考になりそうである（表Ⅷ-2参照）。

- ・20～39歳に関しては両市とも自由回答者の割合の方が全体よりも高くなっており、特に府中では大幅に上回っている。

- ・40～59歳の中年層に関しては仕事の関係上、多少、全体を下回ることが予想された。果たして府中においてはその通りの結果が出たが、三鷹においては逆の結果となった。

- ・60歳以上の比較的高年齢層に関しては、仕事も退職されている方が増えるため多少、全体を上回るかと思われた。しかし、またもや府中においてはその通りの結果となったが、三鷹においてはまたまた逆の結果となった。

三鷹においては中年世代の「自由回答選好」が高く、高年齢世代ではこれが低かった。一方、府中での「自由回答選好」は若い世代と高年齢世代で高く、中年世代では“かなり”低いという結果が出た。

最後に両市の自由回答者の数の差についての検

表VIII-3 自由回答者の性別分布

	三鷹市		府中市	
	人数	割合	人数	割合
男	73人	49.7% (45.3%)	49人	44.5% (45.8%)
女	74人	50.3% (53.4%)	61人	55.5% (53.6%)

(注)「割合」の上段は各市の自由回答者の中での性別の割合、括弧の中は各市のアンケート回答者全体の中での性別の割合  
小数点以下2桁四捨五入

討である。人数の上では三つのどの年代層においても三鷹が府中を上回っているが、特に中年層(40～59歳)の差は26人にも及んでおり、この差がかなり大きな部分を占めているようである。しかし、この年齢層の全体数に関しては、両市の間に有意差と呼べるようなものはない為、この原因に関する数量的な理由付けは難しいようである。結局、ある程度の「質的な違い」(内容は不明だが…)と、ある程度の「偶然的結果」、と結論づけるしかないだろう。

### 3) 性別について

次に自由回答者の性別(問28)について見てみたいと思う(表VIII-3参照)。表VIII-3から、三鷹市においては、男女の数がほぼ半々であることがわかる。これは三鷹市は今回の調査で男性の割合が半分以下(45.3%)であることを考えると、三鷹の男性の自由回答率、すなわち「自由回答選好」がかなり高かったことを示している。一方、府中市に関しては自由回答者内における男女の比率は、全体におけるそれとあまり差は見られなかった。

数の上で両市の男女別の自由回答者数を比べてみると男女とも三鷹市の方が多いのだが、特に男性の差が大きいことがわかる。これが、両市における自由回答者の総数の差に大きく寄与しているようである。

### 4) 職業について

次に自由回答者の職業(問29)について見ていきたいと思う(表VIII-4参照)。

表VIII-4から、両市の「網掛け」を施した部分の上下パターンが一致したものを拾って見ると、①(会社、団体の課長以上)②(専門、技術的な仕事)④(販売関係の仕事)⑦(自由業)⑩(学生)⑪(専業主婦)⑫(退職、失業中、その他無職)であることがわかる。これらの主だったものについて見ていきたいと思う。

- まず①だが、仕事の多忙さなどから低率が予想され、実際、少し全体を下回ったが予想した程ではなかった。

- 次に②だが、両市ともこれに関しては大幅に全体を上回った。これは予想をしていなかった結果だが、両市ともかなり顕著にでた。こうした関係の仕事に従事する人は、比較的知的で几帳面な人が多く、環境問題に対する関心も割合と高いためか?と思われる。

- 次に⑦だが、これも両市とも全体を上回った。特に三鷹市では、全体で22人の自由業者のうち、11人が自由回答者ということで、実に2人に1人は自由回答をしていることになる。自由業の中身までは解らないが、時間的に融通がきくこと、比較的物事を良く考えるタイプの人が多いと予想されること、などがその理由と考えられる。

表Ⅷ-4 自由回答者の職業分布

	選択肢	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	計
三鷹市	人数	16	27	15	3	3	3	11	1	11	8	37	6	5	146
	割合(自由) %	10.9	18.4	8.8	2.0	2.0	2.0	7.5	0.7	7.5	5.4	25.2	4.1	3.4	97.9
	割合(全体) %	11.2	14.4	11.0	3.2	4.7	1.5	3.6	0.8	7.1	5.5	24.4	8.9	1.3	97.6
府中市	人数	8	26	13	5	10	1	4	2	3	2	27	6	2	109
	割合(自由) %	7.3	23.5	11.8	4.5	9.1	0.9	3.6	1.8	2.7	1.8	24.5	5.5	1.8	98.9
	割合(全体) %	8.6	17.9	11.6	5.8	6.1	2.2	2.4	0.6	5.2	3.8	24.4	7.1	1.9	97.6

①会社・団体の課長以上②専門・技術的な仕事③事務的な仕事④販売関係⑤サービス関係⑥労務・生産関係⑦自由業⑧自営・農林漁業⑨自営・商工サービス業⑩学生⑪専業主婦⑫退職・失業中その他の無職⑬その他  
(注)「割合(自由)」とは各市の自由回答者数の中での割合、「割合(全体)」とは各市のアンケート全体の中での割合  
小数点以下2桁四捨五入 不明 三鷹1 府中1

・次に⑩だが、「学生の回答率は低い」と予想された。しかし結果としては、府中ではその通りとなったが、三鷹ではほぼ全体と同じ数値となった。若者の、社会問題への関心の低下が言われるが、環境問題に関しては、環境教育などの成果であろうか。それほどひどい結果ではなかったようである。  
・次に⑪だが、これも両市とも若干、全体を上回った。しかし「主婦の環境問題への関心は高い」と考えて、かなりの高率を予想していた割には低い結果となったようである。

最後に、仕事との関連で見ると「有職」「無職」「仕事の忙しさ」などはそれほど回答率に影響しなかったようである。例えば、①がそれほど低率ではなく、②がかなりの高率、そして③が低率、であることなどからそれがうかがえるといえる。

### 3. 個々の自由回答についての分析

さて、これまで自由回答者の傾向と属性についてみてきたが、次にその中身の方を見てみたいと思う。

1) 問6(問3であげた水辺に関しての不満や困る点)に関して

この設問に関して「その他」の欄に記入した人は、三鷹市で6人、府中市で9人で、府中が三鷹を上回った。三鷹市では玉川上水をあげる人が多く、「現在は単なる下水道にすぎない」とか「ただ水が流れているだけ」などの意見が見られた。一方、府中市では多摩川をあげる人が多く、「多摩川はきれいになったと言われても、依然工場排水が続いている。魚を釣って持って帰る人を見るとぞっとする。」とか「自然そのままに残すことが第

一であり、これ以上、人工的に手を加えないでほしい」などの意見が見られた。

2) 問8 (水道水の味について感じていること) に関して

この設問に関しては自由回答の意見も多く、その内容も「おいしい」「まずい」と意見が大きく分かれた。その為、これを大まかに①「積極評価」②「消極評価」③「中間評価 (特に感じない…など)」④「? (そのままでは飲まないの…)」の四つに分類してみた。以下がその結果である。

三鷹市 総数84人

①…38人 ②…35人 ③…4人 ④…7人

府中市 総数47人

①…11人 ②…28人 ③…0人 ④…8人

同じ市の水道を飲んでいながら、このように意見が大きく分かれたことは注目に値する。これはマンションか一軒家か、などの住居形態による影響が大きいということが考えられたため、いくつかの例について調べてみたが、これに関しては、かなりばらつきが見られ、一定の傾向と呼べるほどのものは出なかった。やはり、住んでいる地域、住居形態、そして“主観”などが混ざりあった結果であろうと思われる。

次に、①の割合を見てみると三鷹の方が府中に比べてかなり高く、三鷹市民による同市の水道の評価は、かなり高いと考えられる (これは、設問自体が消極評価の傾向に傾いていることを考慮する必要があると思われるので)。

また、積極評価の人は「三鷹の”水はおいしい」「府中の”水は…」といった表現をする人が多く、「自分の住んでいる市の水」に対する知識を持っている、水に対する関心が高い、という感じを受けた。しかし、一方では「自分の住んでいる市の水はおいしい」という先入観に、実際の評価が影響されている、という可能性も多少否定できない気がした (ちなみに、消極評価の人には上記のような表現は見られなかった。)

そして、最後になるが、④のような「生の水は飲まないのわからない」という人がこんなにい

たことには驚かされた。なかには「東京の水と聞いただけで飲まないようにしている。」という人もいた。

3) 問10 (水道水の安全性について感じていること) に関して

この設問は自由回答数も少なく、三鷹市9人、府中市6人であった。そのうち最も多かったのは「上記のような情報 (選択肢1~5) がそのまま使っていること自体が不安」や「良く解らないが漠然と不安」、「不安だが信頼するしかない」などのように、安全かどうか良く解らないことに対する不安を訴える趣旨のものが目立った。

そして一方、意外に多かったのは「あまり不安はない」というもの (6人) だったが、これは選択肢の中に肯定的なものがなかった、ということもあるかと思われる (このことを指摘された方がお一人いた。)

4) 問16 (普段、水に関してお宅で実行していること) に関して

問13-1の自由回答ではそれほど重要と思われるものはないので次の問16にはいる。この設問の自由回答者は三鷹市23人、府中市27人で、再び府中が三鷹を上回った。その主なものをあげてみたいと思う (ただし選択肢にあるものと類似するものは省いた)。

- ・「お米のとぎ汁などを流しに流さずに植木などにあげる」 ……9人
- ・「排水口や三角コーナーに目の細かいネットをつけ、細かいごみも流さない」 ……9人
- ・「水洗トイレのタンクの中に瓶などをいれ、水を節約する」 ……4人

その他、「てんぷらなど、油を多く使う料理はしない」や、「風呂水を何度も使用」「洗濯はためすぎで」などの水の節約、そして「雨水浸透マスをつけている」というものもあった。

5) 問19 (環境を守るために普段、実行していること) に関して

この設問の自由回答者は、三鷹市21人、府中市18人であった。選択肢とだぶっているものも多かったのだが、それ以外の主だったものをあげてみたいと思う。

- ・「資源回収に協力する」 …… 8人  
（そのうちトレーの回収が6人）
  - ・「生ゴミは捨てずに埋める、あるいは堆肥にする」 …… 5人
  - ・「洗剤などは詰め替え用の物を購入する」 …… 3人
  - ・「再生紙を使用する」 …… 3人
- その他、「こわれても出来るだけ修理して使用し、物を大切に使う」や「バザーなどに協力する」などがあった。

発泡トレーに関しては最近、大手のスーパーなどで回収箱を設けるところが出てきたため、回答が多数だったようである。しかし、行政での回収が進んでいないので、やはり、近所に回収するところがあるか否かが大きく作用するものと思われる。

この設問の全体の傾向としてリサイクルに対する意識はかなり定着してきていると感じた。また一方でリサイクルされる対象も広がりつつある。しかし、リサイクルという言葉や“隠れミノ”にすることなく、我々のライフスタイルや流通のあり方そのものを見直していくという姿勢を忘れてはならないと思う。また同じリサイクルと呼ばれるものでも、比較的無駄のないリサイクルとそうでないものなど、より細かく吟味していくことも必要と思われる。

6) 問23 (加入している共同購入団体) に関して

この設問に関しては自由回答者数、三鷹市16人、府中市17人となり、僅かに府中が三鷹を上回った。なかには二つ以上の購入団体に加入しているケースも2、3見られた(表Ⅷ-5参照)。

この設問も含めて回答数に関して府中が三鷹を超えているものが多いのだが、唯一圧倒的に三鷹が多かったのは設問8の水道の味についてである。両市の自由回答者の総数の差はこの設問によるところが大きいようである。

7) 問25 (関心を持っている環境問題について) に関して

この設問は自由回答者数、三鷹市13人、府中市12人であった。この設問に関しては、回答が様々なに分かれ、まとまったものが少なかったようであ

る。

以下、主なものをあげてみる。

- ・「排気ガス、ディーゼルエンジンなど大気汚染関係」 …… 3人
  - ・「化学物質の無制限な増大による人体、環境への影響」 ……以下すべて1人
  - ・「環境問題の政治、経済的要因(南北格差や資本主義経済体制など)」
  - ・「ソーラーなどクリーンエネルギーの開発」
- その他、「地球温暖化、異常気象」、「ゴミの投棄」、「人口問題」、「酸性雨」、「自然保護」、「日本の森林破壊」、「放射能汚染」

また、意見として「環境問題に関しては小さいときからの教育が大事」というものや、「企業優先の社会を改めるべき、それが一人一人の幸せにつながる」や行政に対する要望として「ゴミを肥料化する機械を各文化センターに設置してほしい、また水質汚染防止に関しては各市町村の行政機関内に市民から構成される監視機関を設置して定期的な水質調査を行い、市町村側はそのレポートに基づいて公害企業に勧告、行政処分出来るような体制を作るべき」などがあった。

最後になるがこの設問の自由回答のうち、最も多かったのは「選択数が三つまででは少ない、すべてに関心を持っている」というものであった。これはもっともなことだし、「頼もしいこと」だと思った。しかし、それでは「さぞかし何かがんばって活動しているのだろう」と思って関連する回答項目を調べてみると、残念なことに環境関連の団体でメンバーとして活動している人、地域の活動に積極的に参加している人、ともに皆無であった。ここには、様々な問題が「関心」や「知識」のレベルにとどまってしまうがちな、日本人の一般的な傾向が現れているように感じられた。あるいは仕事などが忙しすぎるのであろうか？ いずれにしても、もう少し生活を見直すゆとりが必要だと感じた。

#### 4. いくつかの調査票から

前項では個々の設問についてその特徴、傾向な

表VIII-5 自由回答による「加入している共同購入団体」

三 鷹 市		府 中 市	
・四つ葉会	5人	・府中消費者の会	4人
・大地を守る会	4人	・大地を守る会	3人
・ヤマギシ会	3人	・府中市くらしの会	2人
・新婦人無農薬		・四つ葉会	2人
産直野菜	2人	・JOYコープ	2人
・JOYコープ	1人	・ボラン広場	1人
・あいのう	1人	・無農薬野菜ボックス	1人
・西市民生協	1人	・らでいっしゅぼーや	1人
・三協連	1人	・ヤマギシ会	1人
		・多摩生協	1人
		・三多摩消費者購友会 (なわぼーと)	1人

どについて見てきたが、最後にいくつかの調査票についてその内容を「全体的」に見てみたいと思う。これは、自由回答者という比較的限られた対象を相手にしている、という利点を生かしたものである。このような統計調査においては、設問ごとに区切られてしまうことの多い回答者の全体像、そして回答の雰囲気や少しでも浮かび上がらせてみよう、というのがその目的である。なかなか難しいと思われるが、以下、見てみたいと思う。また紙面の制約上、7名の方を選ぶこととした。

・「多少料金が上がっても、今より水質の良い水道水の方がよいか？」の問いに対して「料金を上げなくても水質の良い水は得られるのでは？」のコメントをつけられた府中在住の40代後半の女性Aさん。Aさんは環境を守るための行動(問16、19)の殆どが丸で、問21であげられたすべての団体にメンバーとして関わっており、地域活動にも積極的に参加、共同購入団体には3つに加入している。水道水の味にはだいたい満足しているが、トリクロロエチレン汚染の問題を知っており、大変不安に思っている。

15年以上前に23区から周囲の環境が良いという理由でここ府中に引っ越してきた。専門・技術的

な仕事に就き、同種の仕事に従事する夫と子供たち家族5人とともに賃貸のマンション(あるいはアパート)に住んでいる。地域に対する愛着は「少しは持っている」

・「環境問題の解決のために生活が多少不自由になっても…」の問いに「程度問題」として大体同意、「企業は製品を回収するシステムを…」の問いに対しては、「回収コストとのバランス、消費財価格にどの程度はねかえるかによる」とした上で大体同意している三鷹在住の30代前半の男性Bさん。Bさんは水道水の安全性に多少の不安はあるが、味にはまあまあ満足している(「以前に住んでいた荻窪よりずっとおいしい」とのこと)。環境関連の団体や地域活動、学習会などには関わったことはなく、共同購入団体にも加入していない。「お宅で実行…」(問16、19)では1/3ぐらいを実行している。

周囲の環境が良いという理由で、23区からここ三鷹に引っ越してきてまだ三年経っていない。会社(あるいは団体)の課長以上で、賃貸のマンション(あるいはアパート)に一人暮らしをしている。「自分のまち」としての愛着は「少しは持っている」



・「リサイクルで集められたものが再生されずに残っていることに対して市・都・国が対策をとっていないことが問題である」とする三鷹在住の20代後半の女性Cさん。Cさんは環境関連の団体には参加していないが、空き缶拾いなどの地域活動には積極的に参加している。そして「お宅で実行…」では2/3程に丸をつけ、その他にも「トイレのタンクの中に1リットルをいれる」「トイレトーパー、ティッシュは全て再生紙100%を買う」などを実行している。トリクロロエチレンの問題は知っているが、さほどの心配はしておらず、多少塩素の臭いが気になるものの、水道水の味にはまあまあ満足している。

親の代から住んでいたということで、三鷹の一戸建てに多摩地区から引っ越してきて15年以上になる。仕事は事務的な仕事で、世帯主は販売関係の仕事に就き、三世代同居の4人暮らし。「自分のまち」としての愛着は「強く持っている」

・「環境を守るためにあなたが…」(問19)に対し「この様なことを実行することを人間に求めるのは反対です。もっと積極的な解決策を行うべきだ」と言う府中在住の50代前半の男性Dさん。Dさんは環境関連の団体に署名やカンパ程度は協力し、空き缶拾いなどの地域活動に少しは参加する。水道水の味に関しては「味が良くない」「塩素の臭いがする」などの理由であまり満足していないが、トリクロロエチレンの問題は知らない。身近に感じる水辺が、立入禁止になったのが不満で、小川などに関し都や市は「水質を改善、水生生物が住める…」「子供が遊べる」ようにすべきと考えている。親の代から住んでいたからという理由で多摩地区から府中の一戸建てに引っ越してきて20年以上になる。専門・技術的な仕事に就き、二世帯同居の5人暮らし。「自分のまち」としての愛着は「あまり持っていない」

・「水については昔から関心があり雨水は地下に浸透させている」という三鷹市在住の70歳以上の男性Eさん。「雨水は大切です、下水に流してしま

うのはモッタイナイですね」という。多摩川の水量が減ってしまったため井戸水も使用不能になってしまった。環境問題に対する国の対応はまあいいが、都や市の対応はだいたい良いと考えている。空き缶拾いなどの地域の活動には積極的に参加し、「お宅で…」は9割がた実行している。トリクロロエチレンの問題は知っていてかなり不安に思っているが、水道水の味に関してはまあまあ満足していて、「三鷹の水はまあまあと思いますよ」とのこと。

今から25年以上前に栃木県から戦時中の徴用のためにここ三鷹に移住してきた。現在は無職で、世帯主は会社(あるいは団体)の課長以上、三世代同居の家族5人と一戸建てに暮らしている。「自分のまち」としての愛着は「強く持っている」

・「自然食品と一口にいうが、実際に作っているところを見ていないのに歌い文句で購入するのはおかしいと思う」と共同購入団体に加入していない府中市在住の40代後半の女性Fさん。Fさんは「関心を持っている環境問題」のほとんどに丸をつけ、「基本的には小さいときからの教育、この一言につきる」と言う。「お宅で…」では半分くらいに丸をつけ、その他にも「料理にてんぷらなどはしない」「ヤシの実洗剤を割高でも買っている」とのこと。一方、環境関連の団体や地域での活動には関わったことがない。トリクロロエチレンの問題は知らず、水道水の味にはまあまあ満足している。

岡山県から仕事(あるいは学校)の関係で、15年以上前にここ府中市に引っ越してきた。世帯主であるFさんは販売関係の仕事に就き、二世帯同居の家族3人で賃貸のマンション(あるいはアパート)に暮らしている。「自分のまち」としての愛着は「強く持っている」

・「都市農業推進のため地場産野菜の購入を心がけ、地場産物のP.R.を機会あればしている」という三鷹市在住の50代後半の女性Hさん。Hさんはリサイクル活動の団体にメンバーとして関わり積極的に参加している。「お宅で…」では8割がたを

実行し、「台所や風呂場の三角カゴにストックングのお古をかぶせていて、人にも勧めている」子供の頃はよく水遊びをし、身近にある野川にやすらぎを感じ、ある程度は満足をしている。トリクロロエチレンのことは知っており、かなり不安に思っているが、水道水の味に関しては「他市区に比べて良い」と感じており、とても満足している。

仕事（あるいは学校）の関係で大阪市から10年以上前にここ三鷹市に引っ越してきた。専門技術的な仕事に就き、世帯主は会社（あるいは団体）の課長以上で、二世帯にわたる一家4人と一戸建てで暮らしている。「自分のまち」としての愛着は「強くもっている」

## 5. おわりに

以上、本稿では「自由回答の分析」を行なった。「分析」というのには程遠いものになってしまった気もするが、最後に少し感想のようなものを述べさせていただき、本稿の締めくくりにしたいと思う。

自由回答を眺めていて一番興味深かったのは、それぞれのお宅で環境を守るためにどのようなことをしているのかを知ることが出来たことであった。いわば、個々の家庭の台所や生活をうかがい知ることが少し出来たということである（別に“のぞき”が趣味とかではなくて）。こういうことの「方法」に関する情報は、「地球を守るために私たちに出来る…」のようなガイドブックや雑誌の特集などで知っているのだが、では実際の家庭でどれくらい行われているか、に関してはなかなか知ることが出来ないからである。全体としてのパーセンテージに関しては「思ったよりは高いかな」とか「でもこれだけの人間が実行していないのか…」などといった感じで、どう判断して良いのか迷いもする。それに丸をつけるだけなら簡単にできるし。しかし、自由回答者が自分の言葉で、しかも自信を持って「(自分は)何々をしています！」と書いてあるのを見るとなんだかうれしい気持ちになるものである。「あー見えない所でも、きちんとこういうことをしてる人って案外いるんだな…」

と。これからは、この様な「目立たない?」(けれど大事な)行動と、市民運動的な「目立つ?」行動、この双方がバランスよくどンドンと広がっていったらいいと思う次第である。

## 付 記

僕（太田）がこの調査に関わりだしたのは、調査票がほぼできあがったころであった。環境問題への関心は高かったものの、水のこととなるとあまり知らないというのが実状であった。その後、全般的な水問題について多少の勉強をし、自由回答の分析を分担した。しかし、まずは一通り目を通そうと他人の自由回答を読むうちに、わが身を振り返ってみて自分がいかに「自分の飲んでいる水」のことについて無知か、今更のように気づかされた。

その後、自分なりに自治体で情報を集めるなどし、やっとわが家の水の“蛇口まで”がようやく少し見えてきたようである。そうした意味でも、この自由回答の分析を通して学んだことは多かったように思う。

今年の夏は記録的な猛暑と四国に代表されるような全国的な水不足の話題がマスコミを、そして世間を賑わせた。そして一方、昨年は冷夏で、九州では大雨が降り、洪水や土砂崩れなど大きな被害を出した。この異常気象は地球温暖化や、熱帯雨林などの、森林の急激な伐採などと無関係ではないであろう。

ちなみに今回の調査では、日頃関心を持っている環境問題として挙げられているものとして、「地球温暖化やオゾン層の破壊」は55.3%でトップであった。一方、「熱帯雨林の破壊」の方は全11項目中、10番目の低位の14.4%で、これは最低の「野生生物の減少」の13.1%に次ぐものであった。「熱帯雨林の破壊」のほうは遠い所の問題で自分にはその「責任」も「影響」もあまりない、という判断であろうか。実際には、日本は熱帯材の国際貿易量の半分近くを輸入しており、その破壊に大いに“責任あり”なのであるが。そして、それによって地球温暖化を促進し、地球規模の気候変動を引き起こして、その影響は決して日本に対しても少

なくはないはずである。

個人的に気になるのは、やはり環境のための運動に対する参加度の低さである。分担ではないので深入りはさけるが、「自然・動物保護団体への参加」では、メンバーとして関わっている人は実にたったの1.4%、「地域の環境問題への参加」では1.7%、「リサイクル活動への参加」では5.6%という低率であった。この辺は、特に欧米などと比べるとかなり差の出るところであろう。この数字の低さは、日本の経済的な繁栄に比してNGOの力が極端に弱いことを示す象徴のように思える。前にも述べたが、知識が単に「知ること」にとどまってしまう、なかなか行動に結びつかないという日本人の一般的な特徴の現れ、と言えるだろう。今後の変化に期待したいところである。

最後につけ加えておきたいのが、これら環境問題の情報源におけるマスコミの重要性である。この調査でも環境問題の情報源として最も多かったのが「テレビ、ラジオの情報」の82.0%、そして

次に多いのが「新聞の記事」の69.4%であった。

「市の広報やニュース」が42.5%と思いの外、多かったものの、やはり大部分の人がマスコミにその情報源を依存しているといえる。この点で気になるのは、一頃マスコミを賑わせていた環境問題の報道が最近ぐっと少なくなったことである（問題はかえって深刻化しているはずだが…）。これは地球サミットを境にしているという声も聞かれる。昨年の夏も大雨による土砂崩れが頻発したときには、森林の荒廃、日本の林業の荒廃の問題がクローズアップされ、対策をめぐって議論を呼んだ。しかし、そのこともいつのまにか人々の頭から忘れられようとしている。熱しやすく冷めやすい日本のマスコミ、そして我々日本人自身の自戒していかなくてはならない点であろう。今年の水不足騒ぎも、「喉元すぎれば熱さ忘れる」ではなく、しっかりとその対策を進めていき、マスコミはその火が消えないように常に問題を喚起し続けていくことが望まれる。

#### Key Words (キー・ワード)

Analysis of Unclassified Answer (「その他」項目分析), Free Answer Preference (自由回答選好)

## Analysis on Free Answers :

Research Report on the Consciousness for Water Environment of Residents in Tokyo (8)

Shigeki Ohta\* and Nobuko Iijima\*\*

\*Graduate Student, Tokyo Metropolitan University

\*\*Faculty of Social Sciences and Humanities, Tokyo Metropolitan University  
*Comprehensive Urban Studies*, No. 54, 1994, pp. 103—114

There were big gap between Mitaka and Futyu about the number of free answerers. I guess, there are three causes. First is the gap about age. In the middle age, free answerers in Mitaka exceeded that of futyu much. And the second, sex distinction. Man in Mitaka exceeded that of Futyu much. And the third, the difference on each question. About the number of free answerer about taste of tap water, Mitaka exceeded Futyu fairly much.

Next is about the age, age of early twenties were fairly good answer-rate, against the expectation, and this decreases in the age of late twenties, in both cities. About the sex difference, the man's answer-rate was fairly high in both cities against the expectation, and especially in Mitaka. About the occupation 'above than the head of section...' and 'students' were not so low-rate as was expected, and on the contrary, 'full-time housewives' were not so high-rate. 'Spical • technical work' and 'a free lance' were high-rate.

Next is about each question. About Q. 6 (the complaint and suffering point about the water front...), in Mitaka the complaint about Tamagawa running water were much, and in Futyu about Tamagawa river. About Q. 8 (the thoughts about the taste of tap water), the number of answerer in Mitaka exceeded that of Futyu much. And about the details, answers were devided into two, 'delicious' and 'poor', but the cause couldn't be cleared. About Q. 10 (the thoughts about the safety of tap water), many appealed vague anxieties. About Q. 16 (the things you are doing about water), many listed up 'pour on plants the water rice has been washed' and 'put fine net on the triangle corner'. About Q. 19 (the things you are doing to protect environment), many listed up the recycling of resources such as 'recycle the dishes made of styrene foam' and 'make compost from the garbage'.

## 大都市居住者の環境意識

— 水問題に関する調査 —

1993年11月

東京都立大学人文学部社会学科  
飯島研究室内  
都市環境調査研究班

突然に、このような調査票をお送りする失礼をお許し下さい。

この調査は、東京都立大学都市研究センターの共同研究プロジェクトの一環として、当研究室を中心に構成した研究班が実施するものであります。

この調査の目的は、大都市・東京で暮らしておられる方々の、環境、特に水環境の実際やその状況に関するご意見をおたずねし、よりよい都市環境を追求し、研究する手がかりとさせていただくことにあります。今回は、都下の多くの市町村の中から、三鷹市と府中市の二つの市を選ばせていただきました。

調査票をお送りする方のお名前は、この二つの市の20歳以上の全市民の方を対象として、その中から無作為抽出で選択させて頂きました。

お煩わせて申し訳ございませんが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、お答えいただいたことは、全て統計的に処理しますので、お書きいただいたことをそのままの形で公表したり、お名前を出すなどということは、一切ありません。どうぞその点ご懸念なくお書き入れ下さるようお願いいたします。

ご注意いただきたい点：

- ① この調査票へのご記入は、封筒の名宛ての方がなさって下さい。
- ② ご記入にあたっては、下線で書かれた指示にしたがって、あてはまるものの番号に○印をつけて下さい。
- ③ 記入されましたら、同封の返信用封筒で、12月14日(火)までにご発送下さい。

お問い合わせ先： 〒192-03 東京都八王子市南大沢 1-1  
東京都立大学人文学部社会学科  
飯島研究室  
電話：0426(77)2054（社会学事務室）

1. まずあなたの身近にある水に親しめる場所について、おうかがいします

問1. あなたは子供の頃、小川や池・沼で泳いだり、水遊びをした経験がありますか。(1つに○印)

1. よく遊んだ
2. 遊んだことがある
3. あまり遊んだことがない
4. まったく遊んだことがない

問2. 水とふれあう場所として、あなたがもっとも親しみを感じるの、次のうちのどれですか。(1つに○印)

1. 海
2. 湖
3. 川
4. 池や沼
5. 街中に作られた水辺

問3. あなたの、もっとも身近にある水辺は、次のどれですか。以下のリストからお選び下さい。(1つに○印)

- |                               |                   |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. 多摩川                        | 2. 野川             |
| 3. 仙川                         | 4. 玉川上水           |
| 5. その他の川や水路                   | 6. 真姿の池・お鷹の道周辺    |
| 7. 井の頭公園                      | 8. 深大寺            |
| 9. その他の池・沼など                  | 10. 府中市郷土の森公園にある池 |
| 11. そのほかの自然公園                 | 12. 近所の公園         |
| 13. 身近に水辺はない(→次ページの問7に進んで下さい) |                   |

問4. 上であげた水辺には、全体として満足していますか。(1つに○印)

1. 満足している
2. ある程度満足している
3. 不満である

問5. 上であげた水辺をあなたが身近に感じる理由のうち、もっとも近いものを1つ選んで、○をつけてください。

1. 水がきれいである
2. 自然がよく残っていて、たくさんの生き物がいる
3. 子供が水遊びや魚とりをすることができる
4. レジャーや観光をすることができる
5. やすらぎを感じる
6. 開放感がある。見晴らしがよい
7. 歴史のある建物や史跡が残っている



問10. あなたが水道水の安全性についてお感じになっていることがあれば、次の中からあてはまるもの全てに○をおつけ下さい。

- 1. 殺菌に使われる塩素について不安がある
- 2. 農薬や合成洗剤の残留に不安がある
- 3. 赤さび等、水道管や受水槽の汚れの不安がある
- 4. トリハロメタンやトリクロロエチレンなどによる汚染の不安がある
- 5. 大腸菌などによる汚染の不安がある
- 6. その他 ( )

	20

問11. あなたの家の最近2ヶ月の水道使用料金はいくら位でしたか。次のうちあてはまるもの1つに○をつけてください。下水道料は除いてください。

- 1. 2,000円以下    2. 2,000円台    3. 3,000円台    4. 4,000円台
- 5. 5,000円台    6. 6,000円台    7. 7,000円台    8. 8,000円台
- 9. 9,000円台    10. 10,000円以上

--	--

問12. あなたは、多少料金があがっても、今より水質のよい水道の方がよい、という意見に同意なさいませうか。(1つに○印)

- 1. 大いに同意する    2. どちらかといえば同意する    3. 同意しない

25
----

問13. あなたのお宅では、これまで地下水(井戸水)や湧水(わき水)を使ったことがありますか。(1つに○印)

- 1. 現在も使っている
- 2. 水道が敷設されてからも使っていたが、現在は使っていない。
- 3. 水道が敷設されるまで使っていた。
- 4. 使ったことはない(→次ページ問14にお進み下さい)

--

→補問13-1. (地下水や湧水を使ったことのある方におうかがいします。)

井戸水は、どのような使い道に使っていらっしゃいますか。

次のうちから、あてはまるものすべてに○印をつけてください

(業務用を含めてお答え下さい)。

- 1. 飲料水や調理、食品製造用の水として
- 2. 風呂、洗濯などの生活用水として
- 3. 散水、洗車などの雑用水として
- 4. 非常用水・防火用水として
- 5. その他 ( )

30







問21. あなたは、次のような団体に所属したり、活動に参加・協力していますか。それぞれについて、1から3のうち1つに○をして下さい。

	メンバーとして 活動している	署名やカンパ に協力する ていと	かかわった ことがない
A. 自然保護・動物愛護の団体	1 -----	2 -----	3 -----
B. リサイクル活動の団体	1 -----	2 -----	3 -----
C. 地域の環境問題にかかわる活動 (水問題、公害、道路の開発反対など)	1 -----	2 -----	3 -----
D. 消費者運動の団体・活動	1 -----	2 -----	3 -----
E. その他 ( )	1 -----	2 -----	3 -----

85

問22. あなたは、ふだん、環境や水辺にかかわる、次のような行事やイベントに参加していますか。それぞれについて、1から3のうち1つに○をして下さい。

	積極的に 参加している	少しは 参加している	参加して いない
A. 空き缶拾いやリサイクル などの地域での活動	1 -----	2 -----	3 -----
B. 自治体による市民講座など	1 -----	2 -----	3 -----
C. 市民団体による 学習会や観察会など	1 -----	2 -----	3 -----
D. 企業が主催する イベントやお祭りなど	1 -----	2 -----	3 -----

70

問23. お宅では、生協などの共同購入団体に加入していらっしゃいますか。加入しておられる団体にいくつでも○印をしてください。

1. コープとうきょう
2. 生活クラブ生協
3. 東都生協
4. 北多摩生協
5. そのほかの生協 ( )
6. 生協以外の共同購入団体 ( )
7. 加入していない

75	

IV. 次に、環境政策についておうかがいします

問24. あなたは、地域の小川や水路にかんして、都や市はどのような施策をとればよいとお考えですか。次の中からいくつでも○をつけてください。

1. 水質を改善し、水生生物や水鳥が棲めるようにする
2. 蓋をして、その上を遊歩道などにする
3. 子どもが落ちたりしないように、柵をする
4. 子どもが遊べるような水辺にする
5. できるだけ手をつけないのがよい
6. 現在の施策のままでよい

80
----

問25. 次にあげるいろいろな環境の問題について、あなたが、日頃、関心を持っているものがありますか。次の中から3つまで選んで○印をつけてください。

1. 地球温暖化やオゾン層の破壊
2. 河川・湖沼・海洋の汚染
3. 食べ物の中の食品添加物や残留農薬など
4. 熱帯林の破壊
5. 排煙や排水、騒音などの公害
6. 資源やエネルギーの無駄使い
7. 野生生物の減少
8. 都市開発に伴う緑地の減少
9. 家庭から出るゴミの増加
10. 有害産業廃棄物の投棄や埋め立て
11. 水道水の水質の悪化
12. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）
13. 重要と思われるものはない

85	

問26. 環境問題について次のような意見があります。それぞれについて、あなたのお考えにいちばん近いものはどれですか。（1つに○印）

大いに だいたい あまり 同意  
同意 同意 同意 でき  
できる できる できない ない

- A. 国は環境問題に関して十分に対応している 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4
- B. 東京都や市は、地域の公害問題や環境問題に関して十分に対応している 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4
- C. 日本全体が今の生活水準を維持するためには、一部の地域で環境破壊などが起こることやむを得ないことだ 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4
- D. 科学技術の発展によって解決される環境問題より、科学技術の発展によって新たに発生した環境問題の方が多い 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4
- E. 環境問題の解決のためには、私たちの生活が多少不自由になっても仕方がない 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4
- F. ゴミ処理の問題は原則として、それぞれの自治体の内部で解決すべきだ 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4
- G. 企業は、製品を作るだけでなく、消費された製品を回収するシステムを用意すべきだ 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4

V. 最後に、基礎的なことについておうかがいします

問27. あなたのお年は満でいくつですか。（1つに○印）

- 1. 20～24歳    2. 25～29歳    3. 30～34歳
- 4. 35～39歳    5. 40～44歳    6. 45～49歳
- 7. 50～54歳    8. 55～59歳    9. 60～64歳
- 10. 65～69歳    11. 70歳以上

問28. あなたの性別をお尋ねします。（1つに○印）

- 1. 男性                      2. 女性

問29. あなたのご職業はなんですか。いくつかのご職業にたずさわっている場合は、主なものを1つだけあげてください。

- 〔勤め人〕 1. 会社・団体の課長以上                      2. 専門・技術的な仕事  
 3. 事務的な仕事    4. 販売関係の仕事  
 5. サービス関係の仕事                                      6. 労務・生産関係の仕事
- 〔自営業〕 7. 自由業    8. 自営・農林漁業  
 9. 自営・商工サービス業
- 〔無職〕 10. 学生    11. 専業主婦  
 12. 退職、失業中、その他の無職
- 〔その他〕 13. その他 (                                      )

--	--

問30. お宅の世帯主の職業を上の中から選んで、その番号を下空欄に記入して下さい。あなたが世帯主の場合は、下の欄には×印を記入して下さい。

(あなたが世帯主でない場合の) 世帯主の職業→

問31. あなたの家族の構成(同居している家族)は次のうちのどれに当てはまりますか。(1つに○印)

1. 単身(あなたのみ)                      2. 夫婦のみ  
 3. 二世代の同居(親と子供)              4. 三世代の同居(祖父母・親・子供)  
 6. その他 (                                      )

--

問32. 現在同居している家族(あなた自身も含めて)の人数は何人ですか。

人

問33. 現在お住まいの住居は、次のどれになりますか。(1つに○印)

1. 一戸建て    2. 分譲のマンションなど  
 3. 賃貸のマンション・アパートなど              4. 社宅・寮  
 5. その他 (                                      )

--

問34. 現在お住まいの市に住んで何年ぐらいになりますか。(1つに○印)

1. 3年未満                      2. 3-5年未満                      3. 5-10年未満  
 4. 10-15年未満                  5. 15-20年未満                  6. 20-25年未満  
 7. 25年以上

--

